

令和6年度 一宮小学校 総括評価表 I (確かな学力の育成)

自己評価		学校関係者評価																		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価																	
基礎学力の定着が十分でない児童がいる。 読解力・思考力に課題がある。	I) 確かな学力の育成  ① 主体的に学ぶ意欲を高め、自ら学び、自ら考える力を育成する。  ② 一人ひとりの個性や能力に応じた指導に取り組む、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。  ③ 言語活動を充実し、表現し、伝え合う力(コミュニケーション力)を育成する。  ④ 家庭学習や読書の習慣の定着を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> </tr> <tr> <td>①-1 児童・保護者アンケートによる「学習意欲」の達成率80%以上</td> <td>①-1 学習意欲に関して、達成率は児童90%、保護者68%となり、児童は指標を上回り、保護者は指標を下回る結果となった。</td> </tr> <tr> <td>②-1 単元テストについて国語・算数の年間平均点が 1～3年生 80点以上 4～6年生 70点以上 が80%以上</td> <td>②-1 単元テストの年間平均点については、1～3年生、4～6年生ともに100%となり、指標を達成できた。</td> </tr> <tr> <td>②-2 児童・保護者アンケートによる「学習内容の理解」の達成率80%以上</td> <td>②-2 学習内容の理解に関しての達成率は、児童86%、保護者86%となり、児童、保護者とも指標を上回った。</td> </tr> <tr> <td>③-1 児童・保護者アンケートによる「相手によく伝わる話し方・書き方」の達成率70%以上</td> <td>③-1 達成率は、児童69%、保護者68%となり、児童・保護者ともに指標程度の結果となった。</td> </tr> <tr> <td>④-1 児童・保護者アンケートによる「家庭学習の時間」の達成率80%以上</td> <td>④-1 家庭学習の時間について、児童59%、保護者32%となり、児童、保護者ともに指標を下回った。</td> </tr> <tr> <td>④-2 読書の達成率60%以上</td> <td>④-2 読書の達成率は児童が42%、保護者が36%であり、指標を大きく下回っている。</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	①-1 児童・保護者アンケートによる「学習意欲」の達成率80%以上	①-1 学習意欲に関して、達成率は児童90%、保護者68%となり、児童は指標を上回り、保護者は指標を下回る結果となった。	②-1 単元テストについて国語・算数の年間平均点が 1～3年生 80点以上 4～6年生 70点以上 が80%以上	②-1 単元テストの年間平均点については、1～3年生、4～6年生ともに100%となり、指標を達成できた。	②-2 児童・保護者アンケートによる「学習内容の理解」の達成率80%以上	②-2 学習内容の理解に関しての達成率は、児童86%、保護者86%となり、児童、保護者とも指標を上回った。	③-1 児童・保護者アンケートによる「相手によく伝わる話し方・書き方」の達成率70%以上	③-1 達成率は、児童69%、保護者68%となり、児童・保護者ともに指標程度の結果となった。	④-1 児童・保護者アンケートによる「家庭学習の時間」の達成率80%以上	④-1 家庭学習の時間について、児童59%、保護者32%となり、児童、保護者ともに指標を下回った。	④-2 読書の達成率60%以上	④-2 読書の達成率は児童が42%、保護者が36%であり、指標を大きく下回っている。	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(評定)  <b>B</b></td> </tr> <tr> <td>(所見)  重点目標①については、学校からの課題が十分にできていないと自覚している児童が一定数いる。保護者からのアンケート結果にも、同様の結果が見られるため、家庭学習の取り組みせ方に課題があることが分かった。  重点目標②については、少人数を生かした個別指導により、力がついてきている。児童の学習意欲は指標を上回ることができているため、引き続き児童の興味・関心を高めることを意識しながら指導を継続する。  重点目標③については、学年が上がる連れて、相手にわかりやすく書いたり話したりすることに對して二極化の傾向があることが、アンケート結果から分かる。  重点目標④については、月に2回の読み聞かせボランティアの取り組みや、朝の活動で、週に2回読書の時間をとったが、中高学年に進むにつれて、進んで本を読む児童が減少していることが分かる。</td> </tr> </table>	総合評価	(評定)  <b>B</b>	(所見)  重点目標①については、学校からの課題が十分にできていないと自覚している児童が一定数いる。保護者からのアンケート結果にも、同様の結果が見られるため、家庭学習の取り組みせ方に課題があることが分かった。  重点目標②については、少人数を生かした個別指導により、力がついてきている。児童の学習意欲は指標を上回ることができているため、引き続き児童の興味・関心を高めることを意識しながら指導を継続する。  重点目標③については、学年が上がる連れて、相手にわかりやすく書いたり話したりすることに對して二極化の傾向があることが、アンケート結果から分かる。  重点目標④については、月に2回の読み聞かせボランティアの取り組みや、朝の活動で、週に2回読書の時間をとったが、中高学年に進むにつれて、進んで本を読む児童が減少していることが分かる。
		評価指標	評価指標の達成度																	
①-1 児童・保護者アンケートによる「学習意欲」の達成率80%以上	①-1 学習意欲に関して、達成率は児童90%、保護者68%となり、児童は指標を上回り、保護者は指標を下回る結果となった。																			
②-1 単元テストについて国語・算数の年間平均点が 1～3年生 80点以上 4～6年生 70点以上 が80%以上	②-1 単元テストの年間平均点については、1～3年生、4～6年生ともに100%となり、指標を達成できた。																			
②-2 児童・保護者アンケートによる「学習内容の理解」の達成率80%以上	②-2 学習内容の理解に関しての達成率は、児童86%、保護者86%となり、児童、保護者とも指標を上回った。																			
③-1 児童・保護者アンケートによる「相手によく伝わる話し方・書き方」の達成率70%以上	③-1 達成率は、児童69%、保護者68%となり、児童・保護者ともに指標程度の結果となった。																			
④-1 児童・保護者アンケートによる「家庭学習の時間」の達成率80%以上	④-1 家庭学習の時間について、児童59%、保護者32%となり、児童、保護者ともに指標を下回った。																			
④-2 読書の達成率60%以上	④-2 読書の達成率は児童が42%、保護者が36%であり、指標を大きく下回っている。																			
総合評価																				
(評定)  <b>B</b>																				
(所見)  重点目標①については、学校からの課題が十分にできていないと自覚している児童が一定数いる。保護者からのアンケート結果にも、同様の結果が見られるため、家庭学習の取り組みせ方に課題があることが分かった。  重点目標②については、少人数を生かした個別指導により、力がついてきている。児童の学習意欲は指標を上回ることができているため、引き続き児童の興味・関心を高めることを意識しながら指導を継続する。  重点目標③については、学年が上がる連れて、相手にわかりやすく書いたり話したりすることに對して二極化の傾向があることが、アンケート結果から分かる。  重点目標④については、月に2回の読み聞かせボランティアの取り組みや、朝の活動で、週に2回読書の時間をとったが、中高学年に進むにつれて、進んで本を読む児童が減少していることが分かる。																				
		<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>①-1 グループでの学習や話し合い活動の取り入れによる授業の充実を図る。 ①-2 導入時に本時の目標を提示し、終末には本時のまとめと振り返りの時間をとる。</td> <td>①-1 グループ学習や話し合い活動の場を十分に確保することができた。 ①-2 授業の流れがみえる板書の工夫や、既習の事項を確認し、見通しをもって課題に取り組めるようにした。</td> </tr> <tr> <td>②-1 個別学習を中心に、児童個々の学力に応じた指導を展開する。 ②-2 週1回、朝ドリルの時間を設定し、学習内容の定着を図る。</td> <td>②-1 各担任が児童の実態をつかみ、個々に応じた学習を行ってきたが、学力面での個人差が大きい。 ②-2 朝ドリルの時間を利用して、学習内容の定着を図った。</td> </tr> <tr> <td>③-1 各教科の授業の中で、書く時間や発表する時間を増やしたり、根拠を明らかにした発言を促したりする。 ③-2 学級活動の話し合い活動を月に1回以上実施</td> <td>③-1 各教科を通して、各単元のまとめとして、自分の意見や考えを書いた。また、全ての教科において発表する活動を多く取り入れてきた。 ③-2 発達段階に合わせて、話し合い活動を行ってきたが、主体的な取組までにはいたっていない。</td> </tr> <tr> <td>④ 家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の進め方の指導を行う。また、朝の読書タイムの充実や図書室の利用促進を図るとともに、担任の読み聞かせや本の紹介を行い様々な本と出会う機会をつくる。</td> <td>④ 家庭と連絡を密に取りながら、児童の実態に応じた学習方法を奨励してきた。 図書委員会を中心に読書に関する集会活動や担任・ボランティアによる本の読み聞かせや紹介によって、興味をもつことができたが、進んで読書を行う児童は少ない。</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	①-1 グループでの学習や話し合い活動の取り入れによる授業の充実を図る。 ①-2 導入時に本時の目標を提示し、終末には本時のまとめと振り返りの時間をとる。	①-1 グループ学習や話し合い活動の場を十分に確保することができた。 ①-2 授業の流れがみえる板書の工夫や、既習の事項を確認し、見通しをもって課題に取り組めるようにした。	②-1 個別学習を中心に、児童個々の学力に応じた指導を展開する。 ②-2 週1回、朝ドリルの時間を設定し、学習内容の定着を図る。	②-1 各担任が児童の実態をつかみ、個々に応じた学習を行ってきたが、学力面での個人差が大きい。 ②-2 朝ドリルの時間を利用して、学習内容の定着を図った。	③-1 各教科の授業の中で、書く時間や発表する時間を増やしたり、根拠を明らかにした発言を促したりする。 ③-2 学級活動の話し合い活動を月に1回以上実施	③-1 各教科を通して、各単元のまとめとして、自分の意見や考えを書いた。また、全ての教科において発表する活動を多く取り入れてきた。 ③-2 発達段階に合わせて、話し合い活動を行ってきたが、主体的な取組までにはいたっていない。	④ 家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の進め方の指導を行う。また、朝の読書タイムの充実や図書室の利用促進を図るとともに、担任の読み聞かせや本の紹介を行い様々な本と出会う機会をつくる。	④ 家庭と連絡を密に取りながら、児童の実態に応じた学習方法を奨励してきた。 図書委員会を中心に読書に関する集会活動や担任・ボランティアによる本の読み聞かせや紹介によって、興味をもつことができたが、進んで読書を行う児童は少ない。	<p>学校関係者の意見</p> <p>① 児童の学習意欲は、十分成果を出しているとは判断する。</p> <p>② 学習内容の理解に関しても、成果を出していると判断する。応用力をつけるためには、問題に慣れることも必要である。</p> <p>③ 読書の習慣は大切なので、低学年のうちから、読む機会を設けてほしい。毎日、短時間でも読書の時間を取って、活字に触れる機会を増やすことで効果があるのではないかと。</p> <p>「本読みカード」の取組で、たくさん本を読んだ児童には多読賞のような表彰を定期的に行うと、児童の読書に対する意欲が高まるのではないかと。</p> <p>読書の習慣は、家庭学習とともに、家庭へ協力を求めていく必要があるだろう。</p> <p>④ 子どものことを理解したうえで、一人ひとりに目が行き届いた効率的な学習が積み重ねられていると感じる。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>① 児童の学習意欲は指標を上回っているため、今後も、児童の興味・関心を高め、主体的な学習ができるよう教材研究を行う。また、板書や活動の場の設定等において、授業のユニバーサルデザイン化を図る。</p> <p>② 今後も個に応じた指導を継続し、長所を生かせるような工夫が必要である。ICT機器やタブレット端末を有効に活用し、個別最適化された学びを実現していく。</p> <p>③ 発達段階に応じて、相手にわかりやすい話し方や書き方の型を示し、継続的に人前で表現する機会を設ける。</p> <p>④ 集中して家庭学習や読書に取り組むことに課題が見られる。今後も家庭への理解と啓発を継続する。 特に読書については、「本読みカード」や読書に対する表彰等、児童の読書に対する意欲を高める手立てを取り入れていく。また、低学年のうちから読書の習慣を身に付けさせるように、学校全体として本に親しむ機会を設ける。 高学年は、新聞記事を読む活動を積極的に取り入れていく。</p>						
活動計画	活動計画の実施状況																			
①-1 グループでの学習や話し合い活動の取り入れによる授業の充実を図る。 ①-2 導入時に本時の目標を提示し、終末には本時のまとめと振り返りの時間をとる。	①-1 グループ学習や話し合い活動の場を十分に確保することができた。 ①-2 授業の流れがみえる板書の工夫や、既習の事項を確認し、見通しをもって課題に取り組めるようにした。																			
②-1 個別学習を中心に、児童個々の学力に応じた指導を展開する。 ②-2 週1回、朝ドリルの時間を設定し、学習内容の定着を図る。	②-1 各担任が児童の実態をつかみ、個々に応じた学習を行ってきたが、学力面での個人差が大きい。 ②-2 朝ドリルの時間を利用して、学習内容の定着を図った。																			
③-1 各教科の授業の中で、書く時間や発表する時間を増やしたり、根拠を明らかにした発言を促したりする。 ③-2 学級活動の話し合い活動を月に1回以上実施	③-1 各教科を通して、各単元のまとめとして、自分の意見や考えを書いた。また、全ての教科において発表する活動を多く取り入れてきた。 ③-2 発達段階に合わせて、話し合い活動を行ってきたが、主体的な取組までにはいたっていない。																			
④ 家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の進め方の指導を行う。また、朝の読書タイムの充実や図書室の利用促進を図るとともに、担任の読み聞かせや本の紹介を行い様々な本と出会う機会をつくる。	④ 家庭と連絡を密に取りながら、児童の実態に応じた学習方法を奨励してきた。 図書委員会を中心に読書に関する集会活動や担任・ボランティアによる本の読み聞かせや紹介によって、興味をもつことができたが、進んで読書を行う児童は少ない。																			

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった